



「道ばたで猫と運命の出会いをした」「野良猫が家に居着いてしまった」などという場合、家族として迎える前にやらなければならないことがあります。まず、飼い主がいるかもしれないので、近くに「猫探しています」のポスターがないかを確認します。次に、動物病院や保健所に飼い主からの問い合わせが入っていないかを聞いてみます。ウェブサイトやSNSで迷い猫の情報をチェックしたり、動物病院で飼い主の情報が入ったマイクロチップ（↓140ページ）が埋め込まれていないかも調べたりするといでしょう。耳がV字型に小さくカットされていたら、地域猫である印。近所に世話している人がいるはずなので、飼い猫として迎えたいと相談してみましょう。



野良猫はワイルドな子が多く、ひっかいたり、「外に出せ!」とうるさく鳴いたり、網戸を破って脱走しようとしたりと、一筋縄ではいきません。飼い主として認めてもらえるまで、根気強く世話する覚悟が必要です。また、ノミやダニ、寄生虫や病気などの心配があるので、家族にすると決めたら、まずは病院で健康診断を受けましょう。赤ちゃん猫の場合、1か月くらいまでは数時間おきにミルクを与える、おしりを刺激して排せつさせる、体温を調節するなど、飼い主が「乳母猫」になる必要があります。また、赤ちゃん猫はささいなことで体調を崩すので、目が離せません。忙しい人が育てることは難しいので、代わりの人を探しましょう。